

JCI JAPAN TOYP 2020 エントリーシート

氏名*	高木 超
フリガナ*	タカギ コスモ
所属団体*	SDGs-SWY / 慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 / 国連大学サステイナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット
活動内容* (200 文字以内)	国連が推進する SDGs の達成に向けた若者の活動を支援すべく NGO を設立し、同団体ウェブサイトでの先駆者へのインタビュー記事の公開や、高校・大学等でのゲスト講義、国際会議への参加を通じて、新たな波を生み出している。また、自身の経験を活かし、グローバルな枠組みである SDGs を自治体でどのように活用していくか研究し、大学教員、国連職員、そして自治体のアドバイザーの立場から実践的な取組を支援している。
活動カテゴリ*	<input type="checkbox"/> ビジネス・経済・起業 <input checked="" type="checkbox"/> 学術 <input type="checkbox"/> 文化 <input type="checkbox"/> 倫理・環境 <input checked="" type="checkbox"/> 青少年育成・世界平和・人権 <input type="checkbox"/> 人道支援・ボランティア <input type="checkbox"/> 科学技術 <input type="checkbox"/> 自己啓発 <input type="checkbox"/> 政治・法律 <input type="checkbox"/> 医療革新 <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> その他(持続可能な開発目標(SDGs))
紹介者氏名 紹介者がいる方は記入	木戸 毅
紹介者所属団体	(一社)横浜青年会議所
JCI JAPAN TOYP を どこで知りましたか?*	<u>青年会議所会員からの推薦</u> (横浜青年会議所) ・ ホームページ ・ フェイスブック ・ チラシ ・ メディア() ・ その他()
紹介理由 (200 文字以内) ※紹介者がいる方は 記載をお願い致します。	高木氏は、地方自治体が SDGs を積極的に取り組みやすくするため渡米し、国連訓練調査研究所が主催する「SDGs と評価に関するリーダーシップ研修」を日本人で初めて修了しました。SDGs 推進活動の中でも特に若者が興味・関心を持って実践できるアイデアを検討し、各自治体で講演しています。このような活動は SDGs の知名度を高め、若者達が SDGs を推進していくための道しるべとなり、JCI JAPAN TOYP 2020 の趣旨にも合致するため、紹介致しました。

顔写真*



経歴
(200 文字以内)

NPO 等を経て大和市役所の職員として住民協働等を担当。2016 年、ミレニアル世代を中心に SDGs の達成に向けて取り組む団体、SDGs-SWY を設立し、共同代表を務める。2017 年秋に市を退職して渡米。国連訓練調査研究所が主催する「SDGs と評価に関するリーダーシップ研修」を日本人で初めて修了。帰国後、2019 年から慶應義塾大学大学院特任助教に着任し、鎌倉市 SDGs 推進アドバイザー等も務める。2020 年に著書「SDGs × 自治体 実践ガイドブック(学芸出版社)」を出版。

2009年・・・ヤンマー懸賞論文に「Sustainable Farm Hand」が入賞(佳作)

2019年・・・鎌倉市 SDGs 推進アドバイザーに就任

2019年・・・慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科に着任

2019年・・・能登 SDGs ラボ(珠洲市)連携研究員に就任

2019年・・・国連サステイナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニットに着任

2020年・・・著書「SDGs × 自治体実践ガイドブックー現場で活かせる知識と手法ー」を出版

活動PR1*
(200 文字以内)



ミレニアル世代の活動を支援

SDGs-SWY のウェブサイトでは、三日月滋賀県知事をはじめ、SDGs 達成に向けて第一線で取り組む先駆者へのインタビュー記事を掲載し、彼らの知見や思いを次世代に繋いでいます。また、同サイト上にミレニアル世代の活動事例を集めて公開することや、朝日新聞社主催の「大学 SDGs ACTION! AWARDS」に連携協力することで、同世代の SDGs 達成に向けた活動を支援しています。

<p>活動PR2* (200 文字以内)</p>	 <p>国連の会議に参加し、その知見を日本に還元 SDGs の進捗を議論する場である「ハイレベル政治フォーラム」をはじめとした国連主催の会議も参加。2018 年夏には、日本の自治体の取組をまとめた「自治体 SDGs マップ」を作成して配布し、日本の取組を世界にアピールしました。こうして得た経験を大学の講義や講演会等で共有しています。2019 年 JCI 金沢大会でも、SDGs 未来都市セッションで基調講演をさせて頂き、土浦青年会議所でも講演をさせて頂くなど、JC にもご縁を頂いています。</p>
<p>活動PR3 (200 文字以内)</p>	 <p>実践的な研究を通じて得たノウハウを、広く社会に還元 研究者として、自治体との共同研究や連携を通じて、自治体が SDGs に対応するのではなく、自治体が SDGs を活用するために、どのようにすれば良いか、実践的なノウハウを検討し、その成果を論文や著書を通じて、広く社会に還元しています。2019 年には、「SDGs 白書」の編集を担当し、SDGs 採択から 4 年間の国内外の動きを整理して広く社会に伝えています。</p>
<p>SDGsのゴールと ターゲット番号及び 結びつきの説明 ※SDGsの取り組みをし ている方は記載をお願い 致します。</p>	<p>番号の記入(住み続けられるまちづくりを) (11.a 各国・地域規模の開発計画の強化を通じて、経済、社会、環境面における都市部、都市周辺部及び農村部間の良好なつながりを支援する。) 説明(地方自治体職員として勤務した経験、国連職員としての経験等を活かし、SDGs の自治体総合計画への反映について、地方自治体と実践的な研究に取り組んでいます。その中で、地方公務員としての経験や、国際機関等での職務経験を活かし、地域の文脈を反映しながら持続可能性を模索し、計画に実装するなど、地域規模の開発計画(総合計画)の強化に貢献しています。)</p>

■質問事項 (全200文字以内厳守)

<p>質問1* (200 文字以内)</p>	<p>活動を始めたきっかけを教えてください 2016 年に内閣府が主催する「世界青年の船」に参加した際、各大陸から参加した青年と、国際社会における課題や SDGs について議論を交わしました。その中で、SDGs の達成期限である 2030 年に社会の重要な役割を担う世代が、ほとんど SDGs に関わっていないことに危機感を感</p>
----------------------------	--

	じ、スリランカやメキシコの青年とともに、SDGs-SWY を立ち上げ、SDGs 達成に向けて取り組むミレニアル世代の活動を支援しています。
質問2* (200 文字以内)	この活動を通してどのような未来を実現したいと思っていますか(ビジョン) 私の名前である「コスモ」は、地球市民を意味する「Cosmopolitan」に由来しています。私の専門である SDGs の文脈においても、国内に留まらず、国境を越えたグローバルな規模で「持続可能な未来」を実現したいです。そのために、グローバルな目標である SDGs (世界)を、ひとりひとりの生活者にとって身近な内容(地域)に翻訳して伝えることで、私は「世界」と「地域」をつなぐ役割を、果たしていきます。
質問3* (200 文字以内)	未来を実現するために今行っている具体的な活動をお答えください(アクション) 「持続可能な未来」を実現するために、できる限り多くの人々が SDGs という共通言語を「自分ごと」にできるよう、雑誌や新聞での寄稿を通じて SDGs に関心を持ってもらうような取組を行っています。また、国際会議で日本の良さや取組を世界に向けて発表することや、著書、講演、マスメディアでの発信等を通じて国内で共有することで、多くの人々が「持続可能な未来」に向けた道のりをイメージできるよう、その意義やポイントを伝えていく活動を続けていきます。
質問4* (200 文字以内)	あなたの行っている活動は社会にどのような影響を与えていますか(インパクト) SDGs-SWY のウェブサイトや SNS を通じた情報提供は、のべ数万人に届いており、ミレニアル世代の取り組みを加速させる一助になっています。また、自治体の文脈では、著書や論文、そして講演を通じて、実践的なノウハウを共有することで、自治体が SDGs の対応に苦慮する状況から、SDGs を活用できる段階に変革するヒントを提供しています。
質問5 (200 文字以内)	あなたの考えるリーダーシップをお答えください 従来は、特定のリーダーがその他の人を引っ張っていくリーダー像が一般的です。しかし、どんな人にも「これは自分がやってみたい」と思う瞬間や、興味を持つ事柄があります。そうした時に、「やりたい」と感じた人が、地位や肩書に関係なく集団の中で舵を取り、他の人が「その人を支える」という形でリーダーシップを取っていく。こうした「出番型リーダーシップ」という考え方を、私はとても大切にしています。

■推薦者情報 推薦者がいる場合のみ記入

ブロック名*	神奈川ブロック
青年会議所名*	(一社)横浜青年会議所
担当役職*	ブランド戦略委員会 副委員長
担当者氏名*	伊澤 利晃
フリガナ*	イザワ トシアキ
推薦理由* (200 文字以内)	高木氏は、学生時代や前職の自治体で得た学び、疑問を解決するために最前線の環境で学び直し、今では団体を設立し、SDGsの推進のため行動されている。SDGsは青年会議所にとっても最重要課題でもあり、彼の活動をサポートすることは今後の世界の経済・社会・環境を発展させる活動である。これらの活動や実績はJCI JAPAN TOYP 2020 候補者として相応しいと考え、推薦致しました。